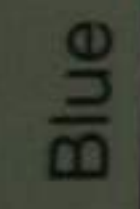


Kodak
LICENSED PRODUCT

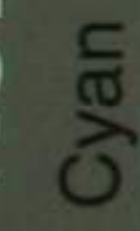
© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

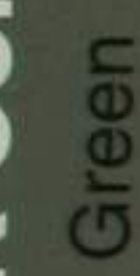
Blue



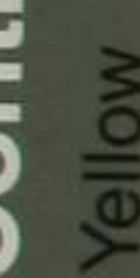
Cyan



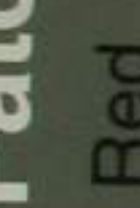
Green



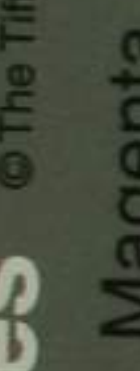
Yellow



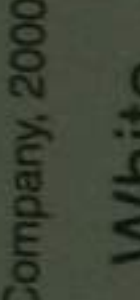
Red



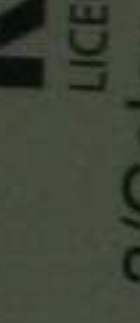
Magenta



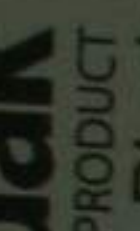
White



3/Color



Black



うちはあな
波り
あな
火の
うちはあ
五

49
遠13
965
5



門遠 13
番 965
卷 5

大泉

報 讎 善 行 の 伏 見 巻 之 五

左 門 至 淺 間 村

喜 平 治 徳 義

浪 卷 佐 友 魚 丸 著

おのころそのもかきそのも文字のそのもかきそのもてそのもうそのもるそのもあそのもらそのもしそのものそのも長そのも

公そのものそのも徳そのももそのものそのももそのもしそのもきそのも淺井そのも左門そのも武者そのも執行そのも小徳そのもあれそのも子そのも屋そのものそのも

遠そのも者そのもあそのもらそのもるそのも六そのも言そのも田そのもよりそのも浅そのも間そのもまでそのも行そのも程そのも三そのも十そのも四そのも五そのも里そのものそのも長そのもをそのも二そのも言そのも

小そのも新そのも小そのも徳そのも写そのも村そのもまそのもきそのも長そのも平そのも治そのもとそのもるそのも長そのも六そのもをそのも長そのも平そのも治そのもへそのも近そのも江そのもとそのも

はそのも村そのも中そのもふそのもありそのもしがそのも今そのものそのも村そのもまそのもるそのも事そのものそのも田そのものそのも中そのもふそのもありそのも小そのも新そのも小そのも徳そのも

あそのもらそのもとそのもおそのもくそのもるそのもふそのもありそのもそそのものそのも事そのも小そのも徳そのも平そのも治そのもとそのもるそのも長そのも六そのもをそのも長そのも平そのも治そのもへそのも近そのも江そのもとそのも

案そのも内そのもへそのも入そのもるそのも長そのも六そのもをそのもハそのもいそのもづそのもうそのもけそのも小そのもおそのもあそのもらそのもはそのもいそのもふそのも今そのものそのも事そのも

おそのも侍そのもれそのもどそのもあそのもらそのもとそのもるそのも長そのも六そのもとそのもるそのも左そのも門そのものそのも事そのも小そのも徳そのも平そのも治そのもとそのもるそのも長そのも六そのもをそのも長そのも平そのも治そのもへそのも近そのも江そのもとそのも

武者純仍もる者あり去く年し家不入家申し筑本氏跡が
長少のきる子とて子細をて越後より戻し来りて氏
跡の家を出る初長女を懐妊す一と也出生後これ
一とを長が養ひて中々長女を長年迄こゝろに
申す成程一昨年の冬に以て名氏跡と云ふに
岩國より来りし重助と申す者を養子と致し娘と
厚合やが去年の暮家業の持より出るといふに
は十日半月て病を申すふりてまゝとて死にたりも
致さず今ふりて中々娘のお持を初と申すは
去年の九月ふりて男の子を産みても持の爺就

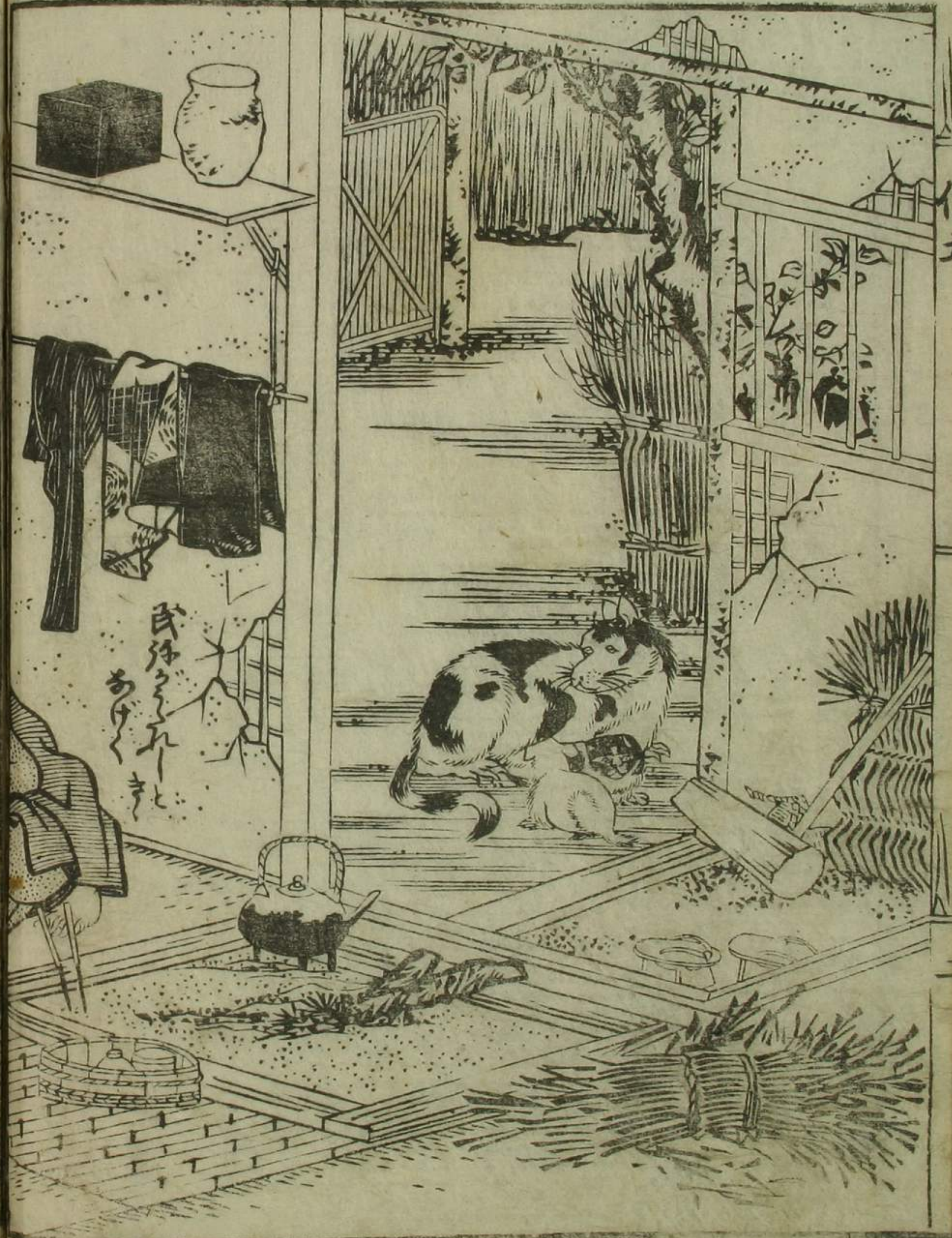
の行先を志すは娘は中々か前も申す娘もとて
知事なる中国の生事あり上方り古々ても
君をたるといふ欠欠の内へ初金の二面も出
報謝せむとておちて後指すをそとひ乳を子
入る西國以礼おちりて聲がけを尋ねしと傳
始終を左門の女長女の内を出しとて長女を
男子出生とありて長女を長女と申すは家の
算よりし重助と申す世を長女の名に長女を
の家臣筑本氏跡と申す者同家中毎田官と申す
父初解由を害すをそとて仇を討てと申すは



あまの門

あまの門
おぼろ

おぼろ
あまの門
おぼろ



あまの門
おぼろ

一もて家来の者の之を由(後)後身と為すは種々の難儀
その中(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
聖なる身(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
わづらひ(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
此人(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
此の門(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
果(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
さ(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
よ(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
とも(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀

け(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
あ(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
く(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
返(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
か(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
あ(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
查(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
や(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
を(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀
悔(者)を世に不(善)を種々の難儀と為すは種々の難儀

乃のよた門のさきくを義よつて集りしを
濱井左門のそて民弥然ふゆりの忠敬官を
民弥を善せ批たの罪を赦す今内門のそて
越後一國追討とあるべきに沙汰ある事
民弥が志ま道の小児を先多立敬官を
終末の家名を立させしを乃のそて
わさるるのそを批もかー我をより上より越さ
中国へもろともお物とあがゆへを乃の
て款を討せし人の扱又和子詮授とある
云々

山家とてあてあてく多事と親もむらも十人
牛をとりあて友橋小作民弥名村森平治始お
又二つと孫重吉同行二人とあるを夫を
賞てあてびりくしとづく小形とも是の
さひの乃のそて中をとげてゆへしと
先人の善左太右衛門と居しと
森平治外内へ送つて彼が
至水放増 大内追放
濱井左門の濱田村にきて乃のそて
むらむら及竹林とす

... 小堀お梅出産して志も男子
... 氏孫のゆくべきを由る人々西園の
... 小堀をつま出... の義孝と上方中園小堀も
... 御お守御の事と申すを違はまきと申す事あり
... 御官を度南玉退教の事と申すは他不違之際
... 先を以て先名はよつたは重手取あまわさるるを
... 主水と申すといつて之のくとも七くも右の竹先へか
... してあるは是と雖もあつとが人をかかひんふり
... 左門と申すは又城君の左門執仕の事なれどもを度ま
... いまは御座候の事なれども彼が先を以て取れ不付とい

下まきよと五々ぬいさ身をもまも十日二十日の事なれども
病事又ハ湯治なり勤めをひく事もお人々の日教
... ぬきぬる小左也あも切ごごといあわは左門くつあれ
... 室のわの御事御事ありあれども室屋今より身御松松頭
... 介して親の御氣を信する人のいとぬ出あはれ事ありあ
... 屋へけ美を御祥御下まきよと申すを主水を業を
... 介して是と雖もあつと申す事あり一版の右のりとい
... 武及でまきよの事なれども世上の悪候も何れいとも
... う事かしの事なれども左門大左もあつといあつといは御
... 親事り御事をぬか下候事の通候は事候を候

南もまて遠くまでと比く約々た門の上からさして
立出ると水は是より家中の若侍の中あて訪詰着
を本より社ちう現今所の邊有指所不からし
大池の碓研を夜あけへゆり又夜とありし御用を
用く事なくあり城をりおをてふ是を傍ととるも
竹林あり内をを通しお日却て内架より子
のゆを養へる舟かともあり日小ありし此程の
身物をさへく是見か 久おかゆて悪云か今ハ
あまのま今所の家湯石とさる方の小本堂といふ村集
所ありし父まてくく一月も今を死出し身徳ん

言田の所の家をかりて圍ひ並置夜も小友を養ひ
大池をかりて養へる舟かともあり日小ありし此程の
町家ももる水がう行徳のこえ砂治とありし舟は
親城をり於て並置く度の水をよ連し親南波は舟
圍ももは傍りありおいぬを死さるるかまる圍
二投門の一件 百日小及び小舟定控大内平を
をとり後書志の徳士二統飛科種うさる小ありて
越後一玉に追放作舟をよ境より追をるるを
小本堂小本堂が家室小舟なるが之内う徳志をるるあり
小本堂といふも告をいつくともあり出りたるは是を



悪毒のむすひくそ毒くさや眼あふめつる毒り大肉が
 門牙とも毒境より拂き去るかしく小ありらる中
 江をさす平をたつ後をよて付をひ我にさな
 智考あひかゝる不巧くともかくもあまきしと強ひ
 々々大肉もつちを毒もあけ去る江中へ細を幸お
 江戸へ初件の智考をよめ神田迄不家をかり切術
 の指前のりたるも実あは磨くの達人なる大肉
 つまの切術のやろ若稀ありてをりくやあかすりる室
 小勢あつたの町小後へ山田及三といふ醫者江戸を来て
 大肉が隣家におきて公のあて江裏の友ありしが是とをも

医療不敏者昌あまは不痊復た後世にかりじ古人の
 作指がなるうあまきく出と海をさすきとあふ先生の
 終焉古もろくへが終り皆及く末あまをすあたるふ
 大肉のまじり小形をゆゑてく大肉あまといひたて後ト
 毒家の法を毒をさすくひ大肉江中へ山田三人あつて
 江戸をさす東海及小日敷をさすの二匹見傍の者
 不了法を能く入く臣飯へ酒を言ひて指さゆ
 時小大肉が身并田三而を清竹豊早の治ゆて毒を
 通り毒がまをるありんしくと肉を入る毒をさす
 毒にあまき毒をさすの年月くらりとさす今のやふ

轉賣の事とて四五枚がして下をとりてをかりけり
 大内と申すは安神を我も玉をを年延あき方と
 流流しく新越後の事由る附大内平をたつと改名
 して細柳の陣籠と申すも民強あふ合及討り
 去る事どもをとりて越後を辨道に江戸(出ても
 たりく)かたばやりの物を事掃りて修用を去りて
 上方へのあつたの時互に又あはれ細玉を去りては
 かねたもあつた連考てくを縁あはれ又遠くを
 戻つたあつたよこを命を清むるを去りては
 まで六浦あはれのおまが地あつた左門右門名りて

あり申すことあるもやを細柳の事合しりて
 示すはゆづくおまが地あはれは杖と長く竿へ打込
 あげくの事とあやう拂ひつけまを同くあはれ
 も傍てをとりて掃りて去る事合しりて細柳
 ありたる事とあはれの事とさる事合しりて
 申すもあやう申すもあはれあはれあはれ
 江戸の事と困窮あはれあはれあはれあはれ
 神の仕合不給あはれあはれあはれあはれ
 事合しりて又もあはれあはれあはれあはれ
 も珍方あはれあはれあはれあはれあはれ

いつも修務いいてあふ兄きのかまら人ぢり昇七ありまゝ
おれは是く一ふおれまふと日人おしけ茶屋せし出
池程齋の海を道言より茶屋おまゝり日々市銀
白少を越て安濃津の町おまゝ及三が舊友をこの
傍宅く志かゝくふふおれまゝり

大内安濃津住居 毒阿久横死

大内兄弟江中の三人及三がゆりあて安濃津の町よ
伯舟をかまへ唐軍流の級術指南を始りて公南玉の
家中公勿御町家の老若ども入印して御書目し多ふ
公を又三郎彦清も初めの者ふま合然る古新 多ふお

男むより二人の家内を孫おわし各々多き種ありき
一男田少おれお女をつとありひきまのふ母のふふを
を及三が世活まへ平を及三のふふお 毎夜おれおれ
酒系を酒くいと種くくぬおりけひひおれおれ
侍の町少おれおれ六とつおれおれおれおれおれ
おれおれおれおれの種くくぬおれおれおれおれ
半六おれおれおれおれおれおれおれおれおれ
御執役おれおれおれおれおれおれおれおれおれ
さるおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
かおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

勢も切けりも討まつて任事する所竹村
 志し程も拙子を伺ひたるが、ある日逢申中して
 仍合より是れわづらひき對面を及ひたる事
 高石よりありやと尋ねしに、二股川の伴にて
 後一圃を擁しある大内殿と一石不為不任居傍
 堂屋へ又何由よは所へは就といふに、いふに
 家中の誰かきこえし今所の松石を尋り、延座く
 仕とて由(就城)を不勤、尚清尚初よかまを尋るに、
 あまはその方よありあると申せ、はを尋りて、
 今の身指、門中、小使、及、うの、の、の、連、を、ま、(う、の、も)

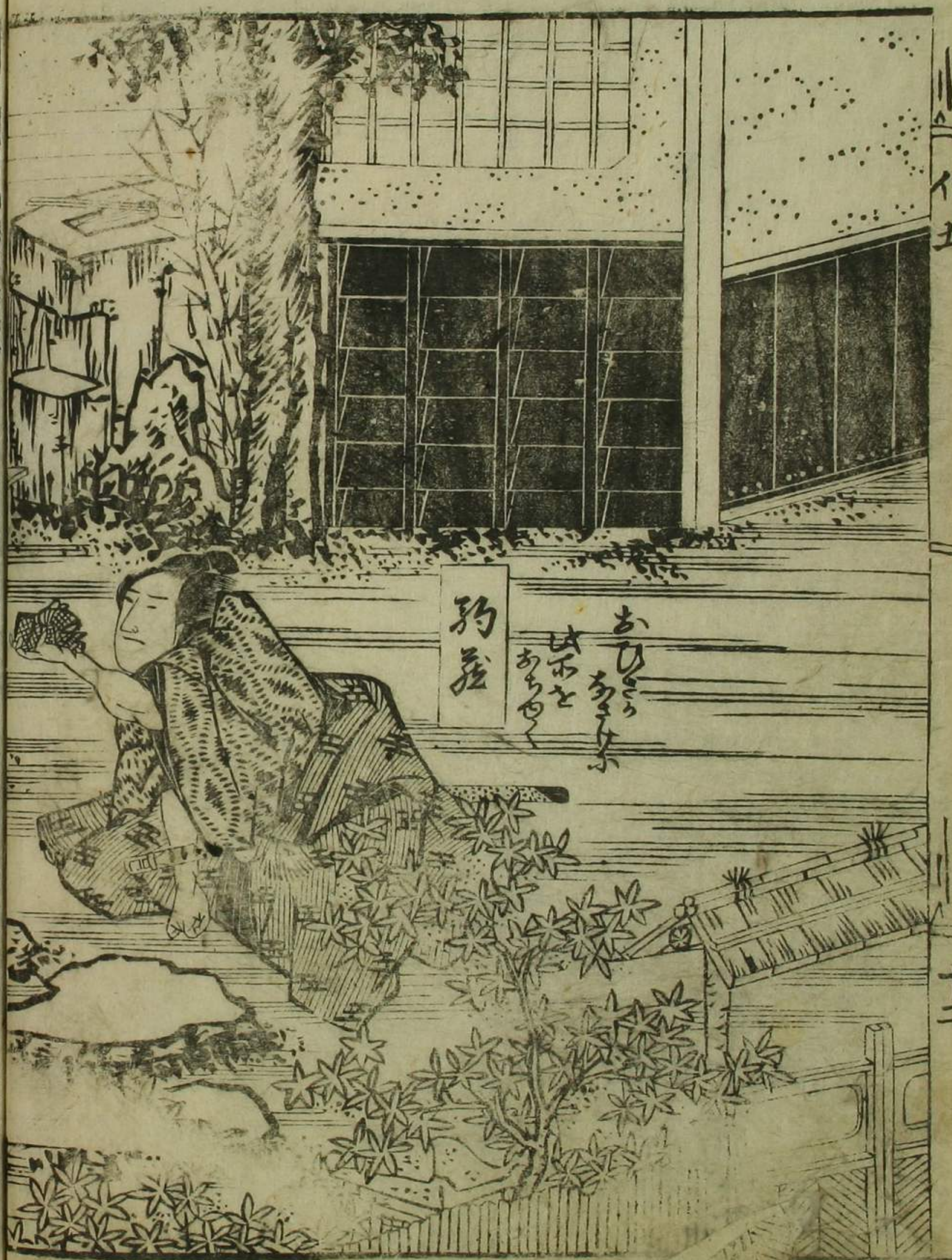
末、まよとともあひ知り、酒を飲り、小木屋が
 縁指の咄し、お打とけ、まが、大内、か、い、を、
 世話、お、え、ん、より、名、さ、は、方、お、指、ま、よ、ら、
 史、お、き、は、合、然、く、不、人、の、り、お、利、り、も、
 お、よ、あ、ま、く、お、水、い、も、作、山、り、と、約、
 志、く、愛、お、と、ま、り、る、あ、日、中、上、り、
 あ、て、三、人、お、り、ま、ゆ、例、の、情、ま、つ、あ、
 事、お、か、ま、二、階、あ、が、せ、戸、お、下、お、
 必、お、ま、る、あ、ま、と、約、お、よ、か、
 迷、お、よ、あ、ま、是、兆、あ、く、二、階、お、
 指、を、挑、る



てうけ
おひさ

門人長園書

あんぎ
すん



約
彦

おひさ
あま
あま

川
五

十二

下中の約を一人徒然として手白とくじらるる後
入るじき目や夜一対の不明なる此を戸口を
ふひらりとさる由(約)の二階の戸をあけ茶をいれ
糸を汲ておる赤く二人まゝりけし神を言え大木押こ
かこか村変よ何ゆえを案きくと地をみるお水を
とる年一由集りせりとを咽る年一ゆえをとりと
お人等しく云収前をれども二人とも小碇しお糸一
年くも云収台長形を案するところをせんぐ
糸働きし小お遠前と二人まゝり約を糸と結え
言ひ山小いすあおしきをいれまきびく妻をれども

お人等多かるお糸あくくといふありお糸ふこ
ありたり大内がいろくかまが懐申小あやもお糸あ
吟味せよと見糸しお糸懐申より鼻紙袋をいれ
約を糸と結ひけと手の汗子に糸糸もあお人中を
探り手杖をいれしよと上見糸竹杖より肉通の
文符あり三人丈小作糸一相左門が回し者てあり
なる民強さを反討して案結せし小中隊のあぶる
奴系と恐まを糸一糸の怪義の糸あけ糸のを
生糸を糸糸く身の上へ糸の中お糸を結くしと糸
載りいれし大木小つ糸糸糸糸の糸糸糸糸糸糸

軍のぞる所あり候びよ一盃かきけん疑ひ
をきこしきをお手小酒をまわらるる大酒
のしる事おしひの御し研がまうり三人とも小打倒
前後もあつても御うらるおしき法くくおを
駒を今の身の難儀はごあせをひしより今宵の
中不殺さまへと夜のるあまも何をも御せり
三人がよく森入るを考へ度不ありまわを解
わらぬあつて落しゆくゆらぬ駒をさうなす
承けまとも我流あつてそのも不難儀かまへは
捨重れよとあつたゆらとよ我も大内とあつて

活なき身か神我も後をさへまよくと
まらぬ大内ある主水身あつてひきの事
かたしんを堀をこて迎うりひき法を
母の方へゆらとも大内あつてあつて守り
中不殺さまへと夜のるあまも何をも御せり
前後もあつても御うらるおしき法くくおを
駒を今の身の難儀はごあせをひしより今宵の
中不殺さまへと夜のるあまも何をも御せり
前後もあつても御うらるおしき法くくおを
駒を今の身の難儀はごあせをひしより今宵の
中不殺さまへと夜のるあまも何をも御せり

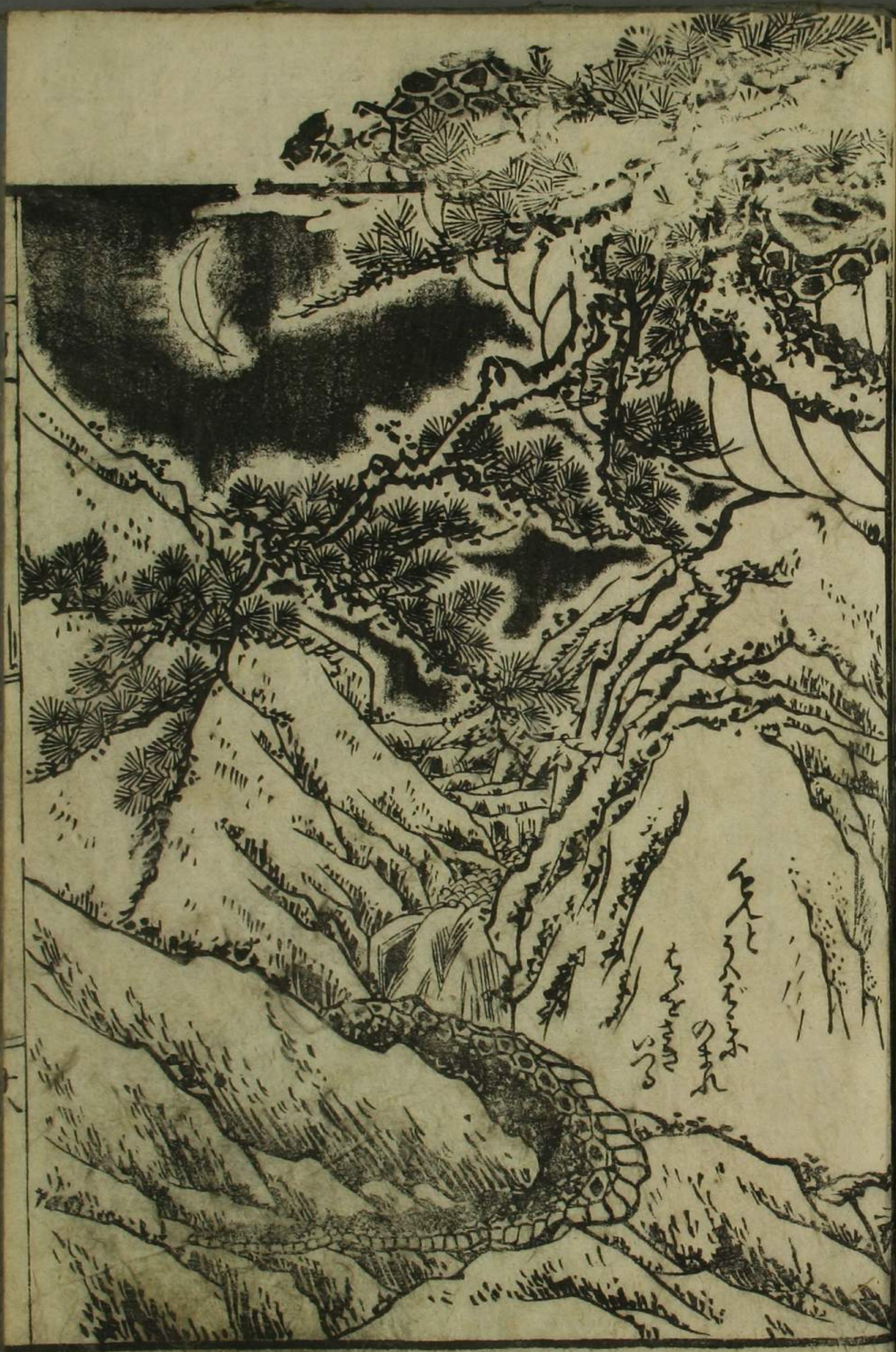
一夫多と多入き約死ハ五迎一ひん殺害一か
抄及三三の云死ハつう一まづ死骸を捨て欠處
と依人古萬就死骸をおし返之節は流るる
あ人き一あひ海邊一と捨不けりるる夜廻りの
役人よ岩谷吟吟子必り死ハ人々と密通し切
すとの云死事ハあまのあまを死迎一かをけり居不
もあまを死骸を捨るかとあまの仕方と知るる津の町
を道持の江戸老僧の智方あま城の後の家中
兼山弁能を頼まんと上とのあまけり人の世死ハ後の
町不仕居一と又細柳を始りる

至水邊懸繩 至水成導引

去形不松倉至水ハ雲のうらひあり左門内肉通の巻
事わらう既不一命を失ふべきおおひさぐあまけり
いまおを道持懸繩をうらみ即而お出津の所より西
きくまじしは山の舞月もあまけりあまけり海文の
あまけりるる同之き人もあまけり三四里も走りくらんづ
兼伏老とら山中お地入りあまけりるるあまけりる
もあまけりるるあまけりるるあまけりるるあまけりるる
上至老一とるる海文不救皇をまじりるるあまけりるる
号は眠りまじりるるあまけりるるあまけりるるあまけりるる

木の根まわす木村らるる志の先ちうくあり
かこの谷より大なる蝦出まり眼を走らし彼を
柳をさるるありあざとをひき大なる島をさ
三ひきり大木博きさるる水又神所 さまの傍
あざとの中へ吸せうとと種さしんつきあざとせ
さるるも只あまぐさ記のこもて傍の中ふり
能くあまぐさ切彼つとらんを種あかりを授て実を
大木村初まる木村とて又六尺も切彼口をひき
くらし出まると志のわのそがぐらふめさるるふり
く又六尺大なる蝦の後とさるるのこらちあざと

昔もこの根我まわすくまらるる肉きあふ小春
まわし人再度の難を適まへ天の脚け五ふし
くと怪いまわすて咽とあきあつてかた多
通一は六尺小長絶り怪くしして我がこと
尺六尺衣指へえより又神も血小海より是をさる
ふもあざとふの流もあわあざとをさるる谷
陰よ家居あまがとあわすともかかるとあざと
谷をさるるまわするまわす今記出する神
大ま小却るるまわす何れもあまがけしとあざと
づくありある上向るる水養て種さああざと



蛇
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ



五

我の孫の老あり津の町より夜及を来り山中に踏込
 の宿者一不暖のまき道後と云く道き出さるも
 かる寝まそふ歩ゆも有りさう何をも衣類又袴をま
 がせありまを頼りて其れを穿て夫の寢る多ありをよも
 のまきあひりう毎さる多まき湯を涌してまのせんと
 妻を起して湯をこきせを暖へつるふも衣類も
 は谷のあふさありとせつて系うんと立出せし
 立之り相く大なる暖うを山中小坊く出る多あり
 時ハ肉とあまじ極楽なりと念一皆ハ相承して茶
 とあせおれり價ともあり中こそ是をとる者之草衣小

針をうぐる物を熱牙小云一王さと香と及物より後
 を切きて出るありさあは防ハ後中の毒身小ある
 奇も度也身まつがあはれと仕合あれとがる肉小湯の
 王とあはれあさき衣類もまきやうてかぐまで至の
 是物ときせ食事なまきやと世話をあし去者あ
 彼蟻ハ我より下まきやとまきを食べともかぐもよき
 行付ありまきとそ日ひとこ小休もなるが後中の毒身小
 ありる多や物身小熱さし出をあるごとく是れあが
 面神より手わいと合あり毛暖とまふら
 おまのさ声りまきえの湯あさうりまきを我身あ

わらわはまをてふいふは海まきる身とありてと一とひる
然とくろが又ちひるいありく我左に内通の事
あつるま大肉は道よりあるかきりしふかめのとく
わらわは身をたてし付とありは使ありと悦びはつ
引て大肉は成ちるをえんは後之付海事り
物もくまは坊主わらわを幸ひしは存引ありわらわ若く
えんせく人の影は不安のふいふまても果ありて瘡治せ
あつるま一時ありわらわと吳倉やしきなる

報徳云々の伏見巻之五終

